

マイクロソフト教育 ソリューション販売

Level 100

50分

ゴール：M365 Education の提案が可能な状態

対象：ライセンス販売が可能な前提で未経験に近い営業

第1部：マイクロソフト GIGAスクール・パッケージの販売法

第2部：Microsoft 365 Education ライセンス契約について

マイクロソフトが提唱する“GIGAスクールパッケージ” 4つのコスト・ポイント

”GIGAスクールパッケージ”

文部科学省が掲げるGIGAスクール構想に対応するため、
マイクロソフトが提供する教育ソリューション

①

GIGAスクール対応PC

②

GIGAスクール構想に対応した
教育プラットフォーム

③

MDMによる大規模な端末展開と
アカウント管理手法の提供

④

学びと働き方を同時改革する
教員研修の無償提供

⑤

「教育情報セキュリティポリシーに関する
ガイドライン」に対応可能なクラウド環境

学校基準

・先生方が使い慣れたWindows

現場の移行不安をなくし、すぐに活用

社会人基準

・子供たちの将来のためにOffice365

社会・企業で使われているスキル

安全基準

・情報は あくまで教育委員会のもの

Azureはクラウドの「貸金庫」

【目的】子供たち1人1人に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の整備

データ活用

1人1ID

学びと働き方の同時改革

教育クラウド

校内無線LANとクラウド利用ネットワークの同時整備

教員研修

子供たち1人1人に個別最適化され、創造性を育める教育ICT環境を

～内閣官房及び3省が連携して令和時代のスタンダードとして学校ICT環境を整備し、公正に個別最適化され、AIに代替されない創造性を育める学びの場の実現へ～

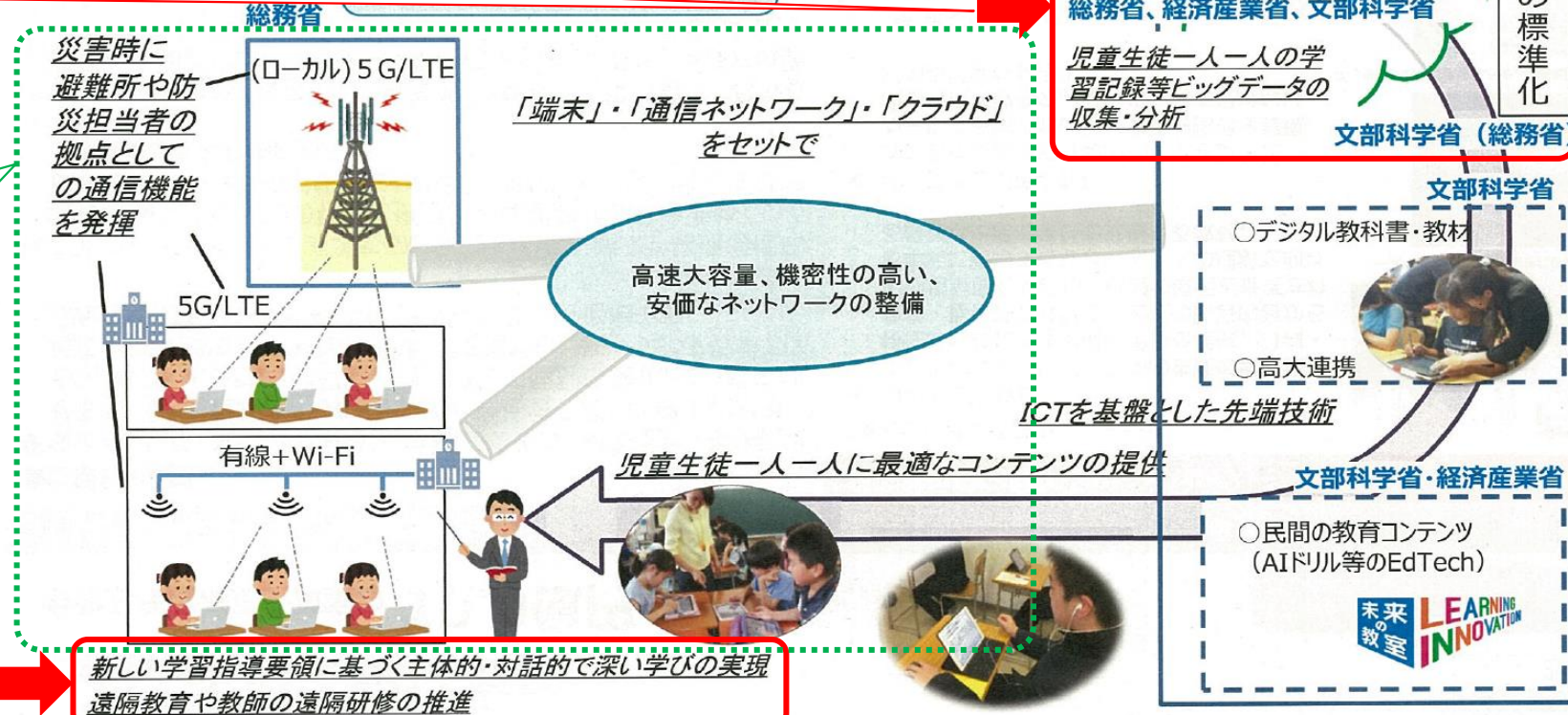
目指すべき次世代の学校・教育現場

- ✓ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う ～遠隔・オンライン教育の実施～
- ✓ 個別に最適で効果的な学びや支援 ～個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有～
- ✓ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む ～文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現～
- ✓ 校務の効率化 ～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- ✓ 学びの知見の共有や生成 ～教師の経験知と科学的視点のベストミックス(EBPMの促進)～

文部科学省（総務省、経済産業省）
最終的に一人一台の
学習者用PCの実現

4. 関係省庁の施策との連携

内閣官房IT総合戦略室
総務省
文部科学省
経済産業省



学校外のデータ及び教育分野以外（医療や福祉等）のデータ

【手段】GIGAスクール構想を実現するための予算1,805億円 + 2,318億円

従来の地方財政措置1,805億円×5か年に加えて、今回の補正予算を適用することで、一人一台端末、ネットワーク、クラウドを利用する環境整備が実現する。

予算内訳 = (A) 1,805億円 + (B①②) 2,318億円

A

学校におけるICT環境整備について

教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）

新学習指導要領においては、情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、積極的にICTを活用することが想定されています。

このため、文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめるとともに、当該整備方針を踏まえ「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」を策定しました。また、このために必要な経費については、**2018～2022年度まで単年度1,805億円の地方財政措置を講ずる**こととされています。

2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針で目標とされている水準

- 学習者用コンピュータ **3クラスに1クラス分程度整備**
- 指導者用コンピュータ **授業を担当する教師1人1台**
- 大型提示装置・実物投影機 **100%整備**
各普通教室**1台**、特別教室用として**6台**
（実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備）
- 超高速インターネット及び無線LAN **100%整備**
- 統合型校務支援システム **100%整備**
- ICT支援員 **4校に1人配置**
- 上記のほか、学習用ツール^(※)、予備用学習者用コンピュータ、充電保管庫、学習用サーバ、校務用サーバ、校務用コンピュータやセキュリティに関するソフトウェアについても整備

1日1コマ分程度、児童生徒が1人1台環境で学習できる環境の実現



この地方財政措置により
3クラスに1クラス分の端末を整備

+

B①

GIGAスクール構想の実現

令和元年度補正予算額（案） 2,318億円
公立:2,173億円、私立:119億円、国立:26億円
資料3-2
(文部科学省所管)

- Society 5.0時代を生きる子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れており、自治体間の格差も大きい。**令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務。**
- このため、**1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備**するとともに、並行してクラウド活用推進、ICT機器の整備調達体制の構築、利活用優良事例の普及、利活用のPDCAサイクル徹底等を進めることで、**多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。**

事業概要

- (1) 校内通信ネットワークの整備
 - 希望する全ての小・中・特支・高等学校等における**校内LANを整備**
 - 加えて、小・中・特支等に**電源キャビネットを整備**
- (2) 児童生徒1人1台端末の整備
 - 国公立の小・中・特支等の**児童生徒が使用するPC端末を整備**

事業スキーム

(1) 公立	補助対象：都道府県、政令市、その他市区町村 補助割合：1/2 ※市区町村は都道府県を通じて国に申請	(2) 公立	交付先：民間団体（執行団体） 補助対象：都道府県、政令市、その他市区町村 補助割合：定額（4.5万円） ※市区町村は都道府県を通じて民間団体に申請、国は民間団体に補助金を交付
私立	補助対象：学校法人、補助割合：1/2	私立	補助対象：学校法人、補助割合：1/2（上限4.5万円）
国立	補助対象：国立大学法人、（独）国立高等専門学校機構 補助割合：定額	国立	補助対象：国立大学法人、補助割合：定額（4.5万円）

措置要件

- ✓「1人1台環境」におけるICT環境の整備状況と、その達成状況を踏まえた教員スキル向上の研修等を実施

◆ 1人1アカウントの設定管理費用も計上が必要

＊ 研修費用は計上できないため、自治体で負担

◆ 補助の上限金額4.5万円

学習者用コンピュータと一体不可分な範囲について



導入した端末を学習者用コンピュータを利用するためには、以下が必要になります。

校内LAN
工事

設定系の
積算可能

校内LAN整備工事及び一体不可分となる
初年度に必要なネットワークの設計・調査

アカウントの初期設計/設定

クラウド上の学習用ツールを利用するために、利用者のアカウントについて1人1台端末の活用を見据えて設計し、アカウントの登録、機能制限の設定などを行う。

このアカウントは教員 or 子供？どのグループに所属させる？

子供のアカウントにはどのツールを使わせる？

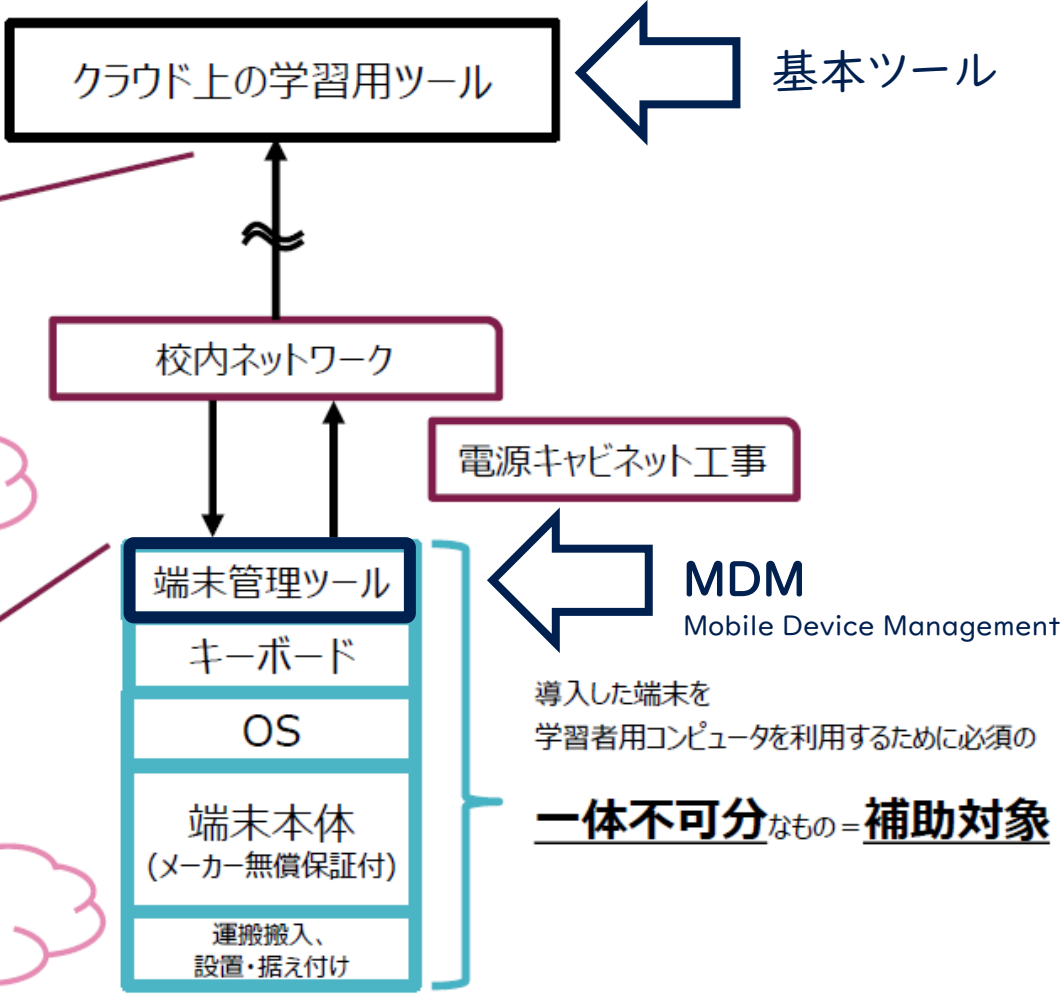
端末の初期設計/設定

学習者用コンピュータとして利用するために、端末ごとの機能制限、ネットワークへの接続制限、セキュリティ設定などを設計し、端末管理ツールを用いて、ネットワークを介して一括設定する。

この端末はどんなアプリケーションを使う？

この端末はどのネットワークに自動的につながる？

端末の盗難・紛失時はどんな制御をする？



端末

搬入系の
積算可能

※青色枠範囲が1人1台端末整備側での補助、赤枠範囲については、校内ネットワーク整備側で補助範囲となる。

目的

手段

[illegible]

従来の地方財政措置1,805億円×5か年に加えて、今回の補正予算を適用することで、一人一台端末、ネットワーク、クラウドを利用する環境整備が実現する。

ICT活用目標

- ICT活用による授業の質の向上
- 授業の効率化
- 学習者のICT活用能力の向上
- 学習者のICT活用態度の向上

ICT活用目標の達成に向けた取組

- ICT活用による授業の質の向上
- 授業の効率化
- 学習者のICT活用能力の向上
- 学習者のICT活用態度の向上

ICT活用目標の達成に向けた取組

- ICT活用による授業の質の向上
- 授業の効率化
- 学習者のICT活用能力の向上
- 学習者のICT活用態度の向上

ICT活用目標の達成に向けた取組

- ICT活用による授業の質の向上
- 授業の効率化
- 学習者のICT活用能力の向上
- 学習者のICT活用態度の向上

解決策

- | | |
|---|--|
| ① | GIGAスクール対応PC |
| ② | GIGAスクール構想に対応した教育プラットフォーム |
| ③ | MDMによる大規模な端末展開とアカウント管理手法の提供 |
| ④ | 学びと働き方を同時改革する教員研修の無償提供 |
| ⑤ | 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に対応可能なクラウド環境 |

① GIGAスクール対応 PC

求められる要件・考慮すべき事項(文科省標準仕様)

- 端末補助の上限金額:4.5万円
(設置・調整・研修・サポート費用を含まない、本体価格)
- ハードウェアキーボード
- タッチパネル
- インカメラ **and** アウトカメラ
- プリンターなど周辺機器との接続
- 主要なプログラミング教材に対応(デスクトップ版可)

マイクロソフトの解決策

- 文科省「GIGAスクール構想学習者用コンピュータ標準仕様書」の内容に即した提案を準備しています。
- ◆ 文科省:Officeなどの基本ツールと端末管理ソフト(MDM)費用を内包すること
- 価格については、各代理店様からお見積りをご請求ください。

文科省のGIGAスクール・スペック対応PC発売メーカー

8メーカー
17機種



文科省 Windows OS 端末 × 基本ツール: 教育機関向け Office 365 ライセンス(無償) × MDM 端末管理ツール



Windows端末 (キーボード付)

Word、Excel、PowerPoint といった使い慣れた Officeアプリや Forms (アンケート・小テスト機能) や Sway といった発表ツールがブラウザ上で利用可能です。さらに Teams を使えば、クラスごとに課題を配布・回収・採点したり、Word、Excel、PowerPointなどのファイルを同時に協働編集が行えます。併せて遠隔授業のためのWeb会議、OneNoteでクラス全員のノートの管理も行え、これらは全て無償で利用が可能です。また、既にご利用の周辺機器やプリンタへの接続も円滑に行えたり、Scratchをはじめ、多くのプログラミング教材 (アプリケーション) をローカルディスクにインストールすることができます。Office 365 については、Chromebook、iPadでも利用可能です。

8×-力-17機種



2019年12月、文部科学省は、一人一台PC環境と、高速大容量の通信ネットワーク、パブリッククラウド等を一体的に整備する「GIGAスクール構想」を発表しました。日本マイクロソフトは、GIGAスクール構想に共鳴し、パートナー様とともに本構想の一日一歩の実現に向けてのお手伝いをします。日本の未来を担う子供たちが、日本全国どこに住んでも最先端のITツールを使って学び、未来を築きあげ力をつけられるよう、PCを始めとして本構想に対応したITインフラを提供します。

*1 うち 6 機種は LTE 対応機種。*2 GIGA スクール賞 学習者用コンピュータの標準仕様書に基づいた要件を満たす。

<https://aka.ms/giga>



日本マイクロソフト株式会社 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

Microsoft, Microsoft 又は、米国 Microsoft Corporation 及びその他の国における登録商標または商標です。その他記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。 © 2020 Microsoft Corporation. All rights reserved.

GIGAスクール対応PC WiFiモデル（特別なWindows低価格ライセンス対応）

2020年2月:11モデル

[illegible]

GIGAスクール対応PC LTE モデル (特別なWindows低価格ライセンス対応)

2020年2月:6モデル

メーカー名	NEC	Dynabook	富士通	富士通	マウスコンピュータ	Lenovo
製品写真						
製品名	近日発表予定	dynabook K50	ARROWS Tab Q509/VE	ARROWS Tab Q5010/CE	MousePro-P116B LTE	ideapad D330 LTE
メーカー型番	近日発表予定	A6K1FPV41211	Q509/VE	Q5010/CE	MousePro-P116B LTE	81H300EVJP
タイプ	コンバーチブル型	デタッチャブル型	デタッチャブル型	デタッチャブル型	コンバーチブル型	デタッチャブル型
CPU	Celeron N4020	インテル® Celeron® プロセッサー N4020	Intel® Celeron®プロセッサー N4000 / N4100	Intel® Celeron®プロセッサー N4000 / N4100	Celeron N4100	Celeron N4000
ストレージ容量	64GB(eMMC)	128GB (eMMC)	64GB / 128GB (eMMC)	64GB / 128GB / 256GB (eMMC)	64GB (eMMC)	64GB (eMMC)
メモリ容量	4GB	4GB	4GB (CPU:N4000選択時) / 8GB (CPU:N4100選択時)	4GB (CPU:N4000選択時) / 8GB (CPU:N4100選択時)	4GB	4GB
画面サイズ	11.6インチHDタッチパネル	タッチパネル付き 10.1型 WXGA 広視野角 TFTカラーLED液晶(省電力LEDバックライト)	約10.1型ワイド, タッチパネル	約10.1型ワイド, タッチパネル	11.6" (1366×768) Touch Panel (10点マルチタッチ対応, スタイラスペン付属)	10.1インチ HD IPS タッチパネル
キーボード	日本語キーボード	84キー (JIS配列準拠)、キーピッチ:17mm、キーストローク:1.2mm	日本語キーボード	日本語キーボード	日本語キーボード	日本語キーボード
WiFi	IEEE 802.11a/b/g/n/ac	IEEE 802.11a/b/g/n/ac	IEEE 802.11a/b/g/n/ac	IEEE 802.11a/b/g/n/ac	IEEE 802.11a/b/g/n/ac	IEEE 802.11a/b/g/n/ac
カメラ	インカメラ HD/アウトカメラ 5M搭載	フロントカメラ 有効画素数 約200万画素/リアカメラ 有効画素数 約500万画素	インカメラ (200万画素) アウトカメラ (800万画素)	インカメラ (200万画素) アウトカメラ (800万画素)	イン/アウト2M (回転in/out 両用式)	インカメラ/アウトカメラ搭載
オーディオ	ヘッドセット/ヘッドホン端子	ヘッドセット/ヘッドホン端子	ヘッドセット/ヘッドホン端子	ヘッドセット/ヘッドホン端子	ヘッドセット/ヘッドホン端子	ヘッドセット/ヘッドホン端子
USBポート	USB3.0(Type-A)x2, USB3.0(Type-C)x2	USB Type-C 1コネクタ	USB3.0(Type-A) x1, USB3.1(Type-C)x1	USB3.0(Type-A) x1, USB3.1(Type-C)x1	USB3.0(Type-A)x1, USB3.0(Type-C)x1	USB Type-C 3.1x1
バッテリー駆動時間	約8時間以上(予定)	約16時間	約12.8時間	約13.0時間	約10.6時間	約14.3時間
重量	約1.4Kg以下(予定)	タブレット:約620g、キーボードドック接続時:約1,190g	約0.99kg	約0.98kg	約1.38kg	約1.135kg (キーボード接続時)
Microsoft Autopilot対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応

② GIGAスクール構想に対応した 教育プラットフォーム

1人1台時代に最適な、教育プラットフォーム

Microsoft 365 Education GIGA Promo





GIGAスクール構想のための

Microsoft 365 Education GIGA Promo

個別最適化学習に必要な学習プラットフォームと
教育機関に最適なWindows端末で実現する、未来の学び

- ・ 端末の大規模一斉展開を考慮した、シンプルな導入方法
- ・ 端末に紐づいた買い切りライセンス
- ・ 端末・ユーザー・アプリなどを、すべて同一のツールで一元管理
- ・ 協働編集用のプラットフォームを手軽に構築可能
- ・ Office 365 ProPlus、Teams for Education や OneNoteなど、
個別最適化学習と協働学習に特化した学習ツールで最新の学びを実現

■ 端末管理ツール : Microsoft 365 Education GIGA Promo

Microsoft 365 Education GIGA Promo

クラウド上の学習用ツール

基本ツール

Office 365 Professional Plus

校内ネットワーク

電源キャビネット工事

端末管理ツール

MDM
Mobile Device Management

キーボード

OS

端末本体
(メーカー無償保証付)

運搬搬入、
設置・据え付け

導入した端末を
学習者用コンピュータを利用するために必須の

一体不可分なもの = **補助対象**

Intune for Education

Windows 10 upgrade

- 2,760円/端末 買い切り
- 端末に紐づいたライセンス
(該当端末が使えるかぎり、
最長6年間 利用可能)

- Student Use Benefit 対象外
- 共有端末での利用

GIGAスクール構想に対応した 教育プラットフォームのご用命

求められる要件・考慮すべき事項

- 導入の工数を減らし、校内LAN工事を削減したい
- GIGAスクール予算内で、少しでもコスト削減をしたい
- 全国の自治体や学校が、より容易に、より効率的・効果的な調達ができるように支援
- 都道府県レベルでの共同調達を推進

マイクロソフトの解決策

- 端末管理ライセンスとして Microsoft 365 Education ライセンスの提供
- 都道府県が市区町村を取りまとめる共同調達の場 合、教育委員会向け圏域包括プログラムを提供

■ 端末予算: Microsoft 365 Education ライセンス

端末・ユーザ管理や運用のためにはMDMライセンスが必要です。

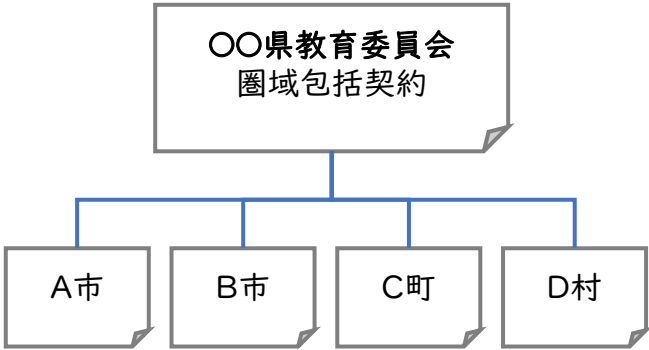
マイクロソフト純正MDM 教育機関向けライセンス

Microsoft 365 Education GIGA Promo	
Intune for Education	詳細 ● 2,760円/端末 買い切り ● 端末に紐づいたライセンス (該当端末が使えるかぎり、最長6年間 利用可能) ● Student Use Benefit 対象外 ● 共有端末での利用 ライセンスプログラム ● CSP 対象顧客 ● GIGAスクール構想の予算で端末を購入する日本の教育機関
Office 365 Professional Plus	
Windows 10 upgrade	

■ 都道府県単位での圏域包括プログラム

都道府県単位で、市町村含めて契約を取りまとめることで、様々なメリットがあります。

通常は教職員1000名以上が最低契約数量ですが、圏域包括プログラムにすることで規模の小さな市町村でもご契約可能になります。



※価格はすべて参考価格(2020年1月時点) 実際の価格は販売店によって決定されます。個別にお見積りください。

ライセンスに関しては
後ほど ライセンス編で
詳しく行います。



④ Teams で Society5.0 時代の社会人スキルを育成

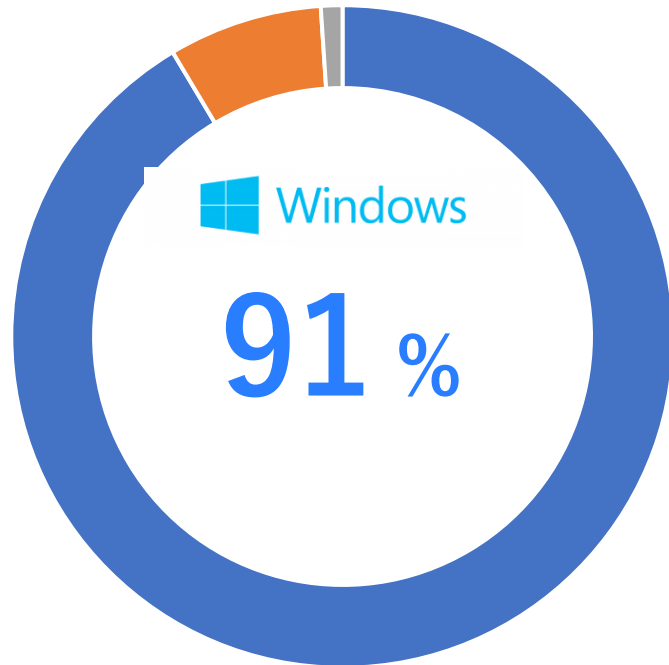


日本で 世界で WindowsとOfficeは 学校現場を支えています

学校基準

- ・先生方が使い慣れたWindows ○過去資産

教育用PCのOS別台数



■ Windows ■ iOS/macOS ■ その他

文科省 学校における教育の情報化の実態等に関する調査
/ 平成30年度 調査結果

現場の移行不安をなくし、すぐに活用



DO-IT Japan
障害や病気のある子どもたち・若者の
テクノロジーを活用した応援プログラム



幼稚園の年長からWindows端末を配備

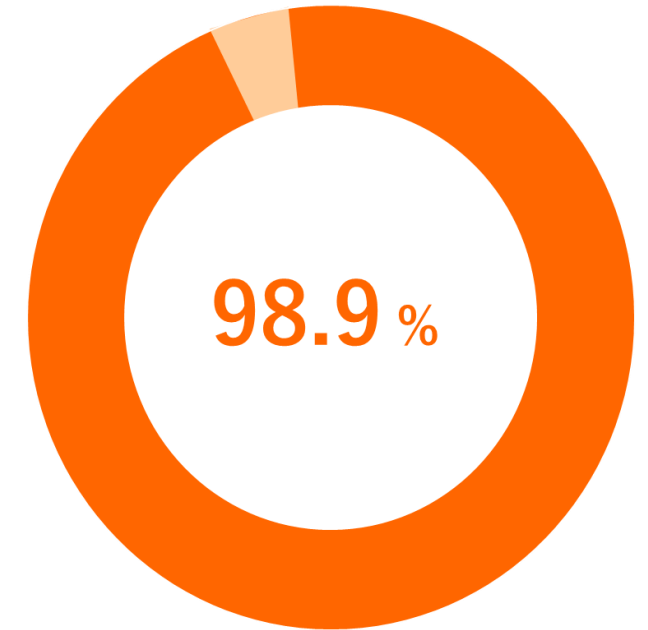
保護者が社会で通じる

ITリテラシーの習得を要望

Renton Prep School (US) 4yrs old -Grade10

社会人基準

- ・子供たちの将来のためにOffice365



社会・企業で使われている標準スキル

Windows+ Office365教育プラットフォーム
実績+将来性 = 安心

1 

チャット機能による
他者との会話の体験

4  

Teamsを使って話し合い、
自分の経験を入れた文書にまとめる

2 

教科書から読み取った内容を
OneNoteに書き込み

5 

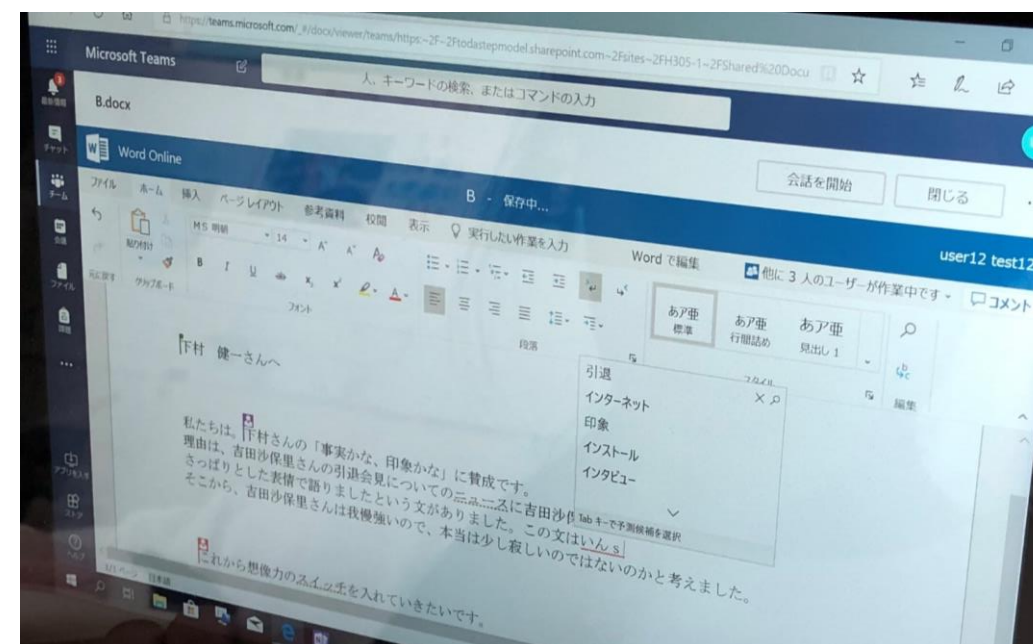
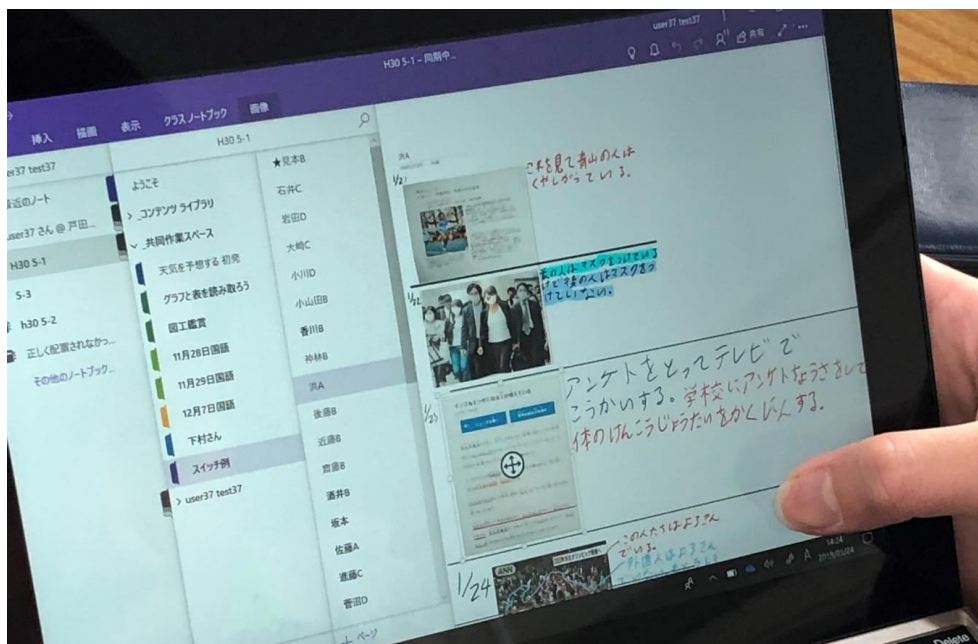
OneNote で他者のノートと比較
共通点と相違点の共有

3 

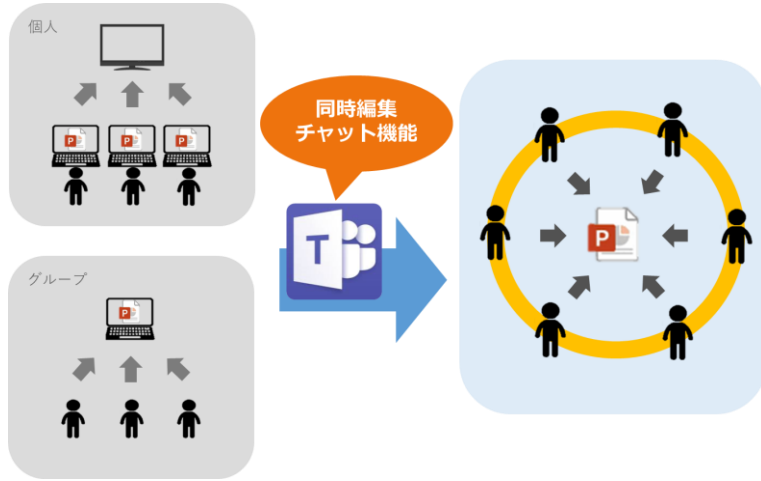
OneNoteに自分の経験・
考えを書き込み

6  

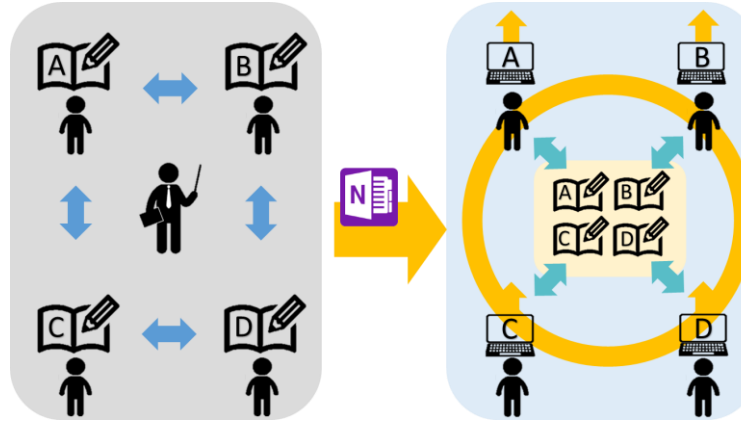
Teams上のWordで1つの文書を
4人グループで同時編集



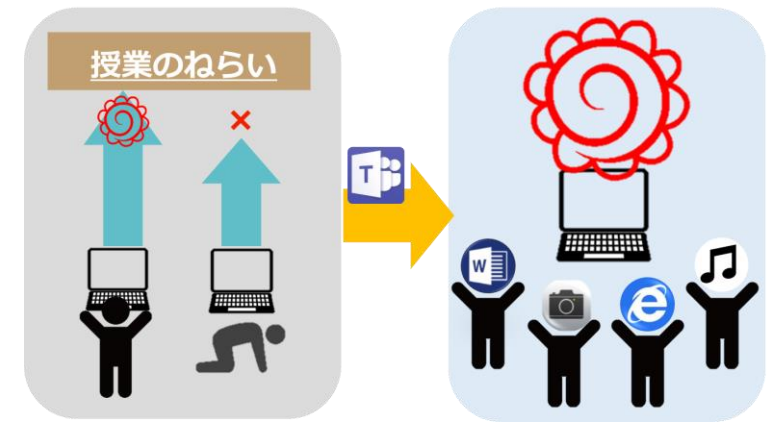
① 協働的な学びの実現



② 子供たちが自走



③ 個性が生きる



授業のあり方

授業で育成する力

自ら課題を発見・解決していく力

Office365

今後の働き方

今後求められる力

学校課題研究

グローバル社会でたくましく生き抜き、
活躍できる児童生徒の育成

PBL (プロジェクト・ベースド・ラーニング)

自ら課題を発見・解決していく力



埼玉県戸田市立戸田東小学校
主幹教諭 勝俣 武俊

④ 教育現場での活用 : Teams = コミュニケーション・ハブ

教職員の業務

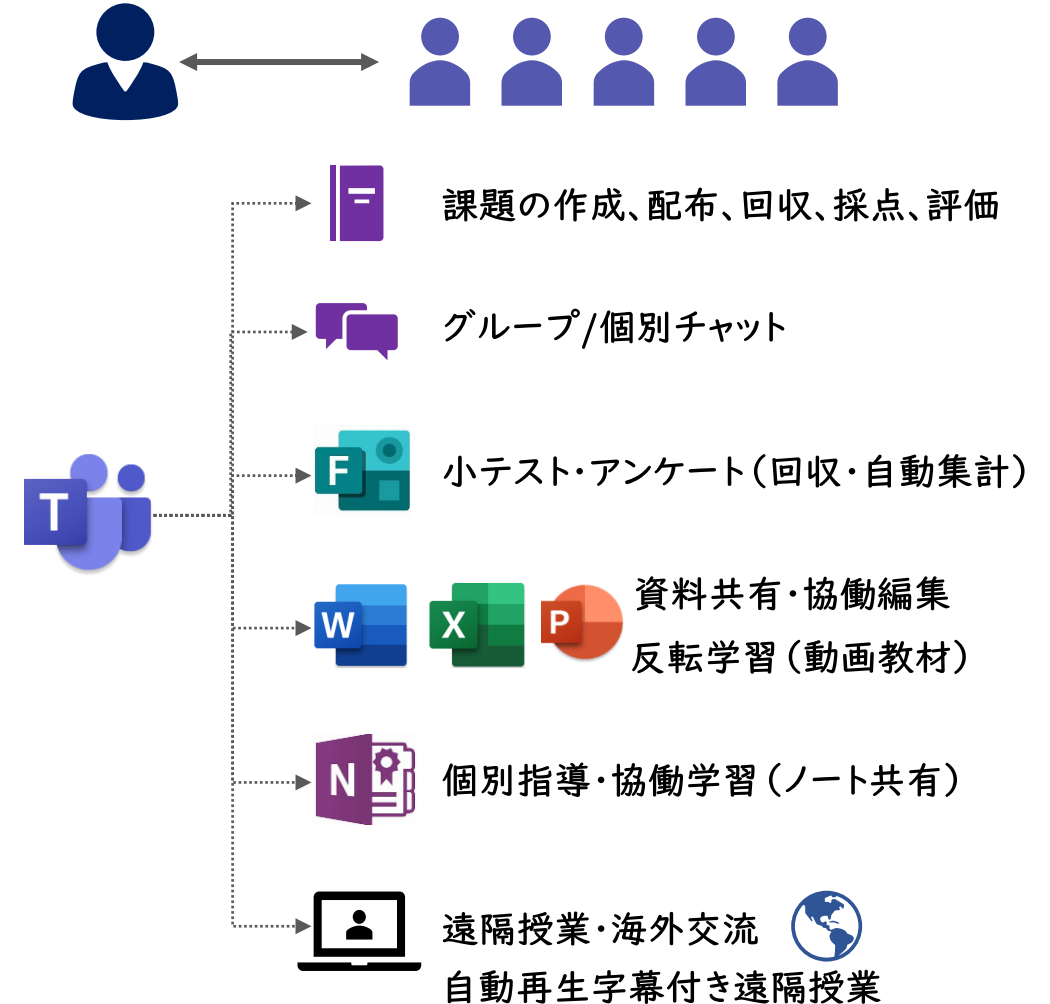
働き方



授業・学習活動

教え方

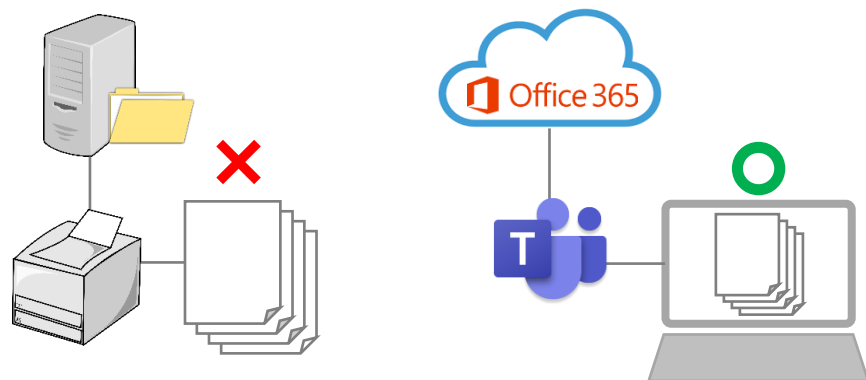
学び方



現場への導入は まず働き方改革 → 「自分事の実感」 → 次に学び方改革へ

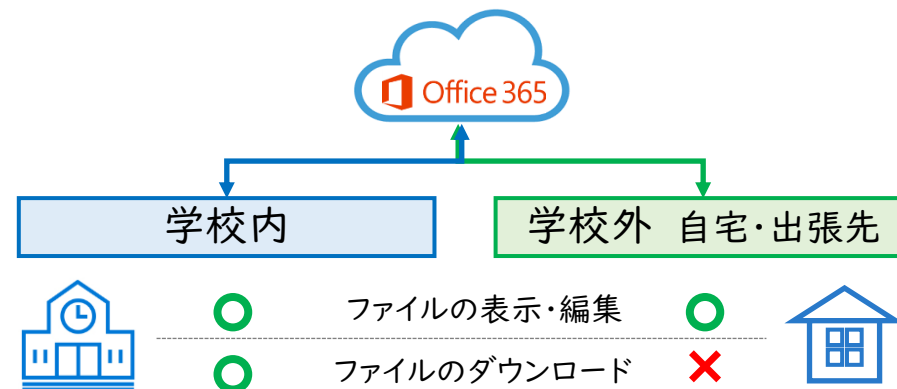
職員室のペーパーレス

会議資料などファイル共有環境の整備と教職員端末の有効活用



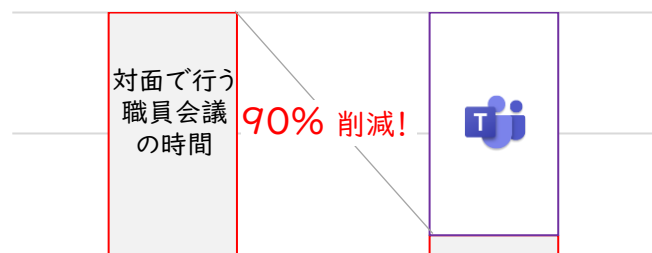
テレワーク

学校でのファイル編集作業を自宅など校外でも安全に実施



職員会議の削減・定例業務の削減

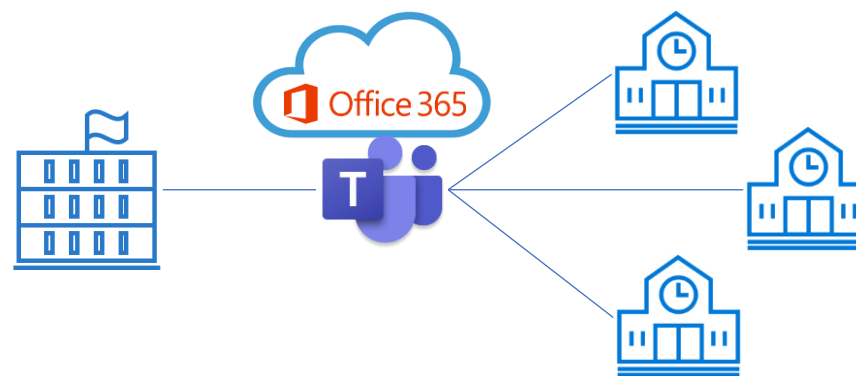
職員会議を削減し、定例業務を削減することで児童・生徒と向き合う時間に充てる



週次で担当表を通知するなどのルーティン作業は自動化

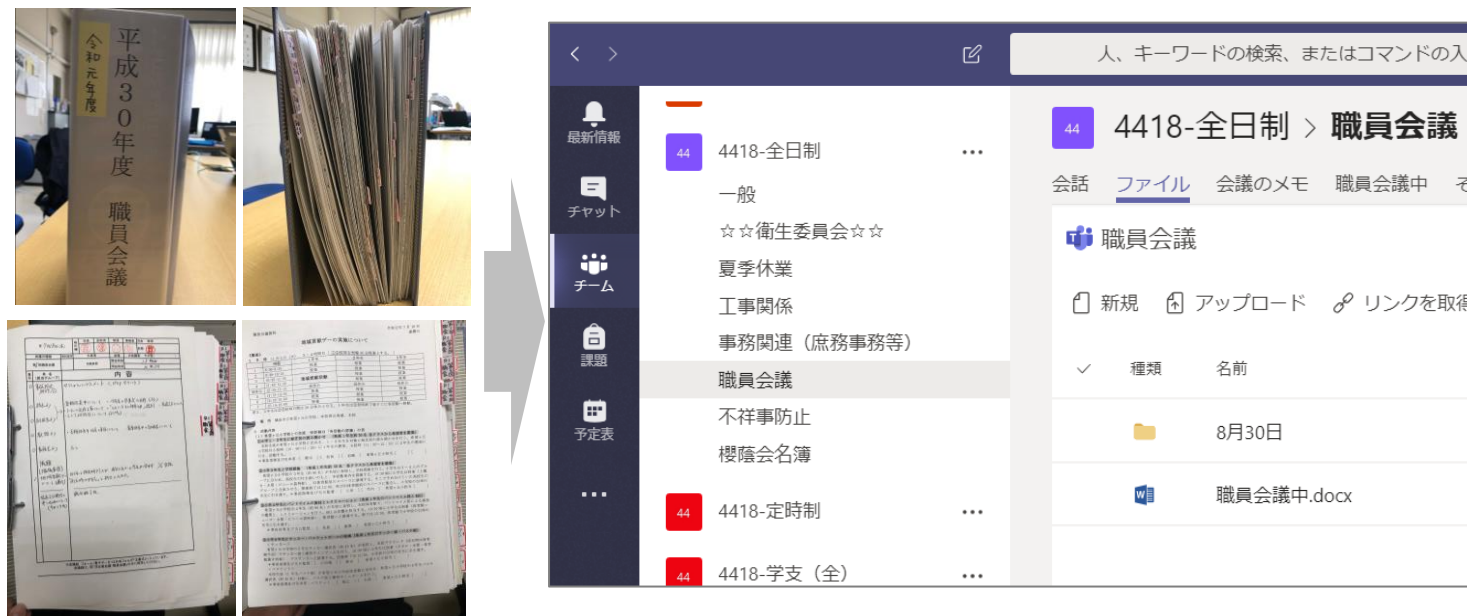
教育委員会・学校間の遠隔会議

教育委員会・学校間の会議・連絡・報告に伴う移動時間の削減とタイムリーなコミュニケーションの実現



校務でICT活用の実感→教員は同じツールを授業でも安心して利用

職員会議のペーパーレス

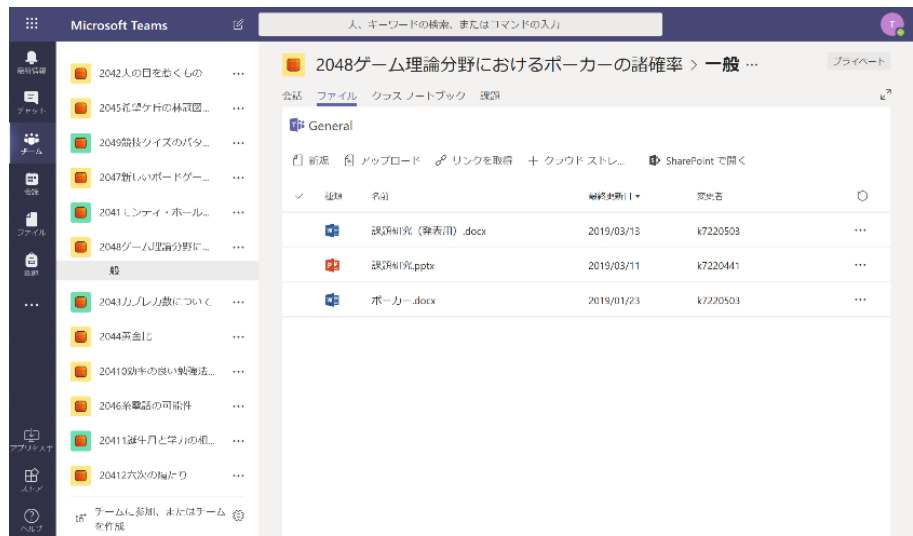


Left side: Physical files and documents, including a folder labeled '平成30年度 職員会議'.

Right side: Microsoft Teams interface showing the '職員会議' (Staff Meeting) channel. The left sidebar lists various meeting types, and the main area shows a list of documents related to the meeting.

種類	名前
8月30日	
	職員会議中.docx

課題研究でのファイル共有



Microsoft Teams interface showing a channel for '2048ゲーム理論分野におけるポーカーの諸確率'. The 'ファイル' (Files) tab is active, displaying a list of documents shared in the channel.

種類	名前	最終更新	変更者
Word	誤訳研究(発表用).docx	2019/03/13	k7220503
PowerPoint	誤訳研究.pptx	2019/03/11	k7220441
Word	ポーカー.docx	2019/01/23	k7220503

学年通信を共同編集で作成

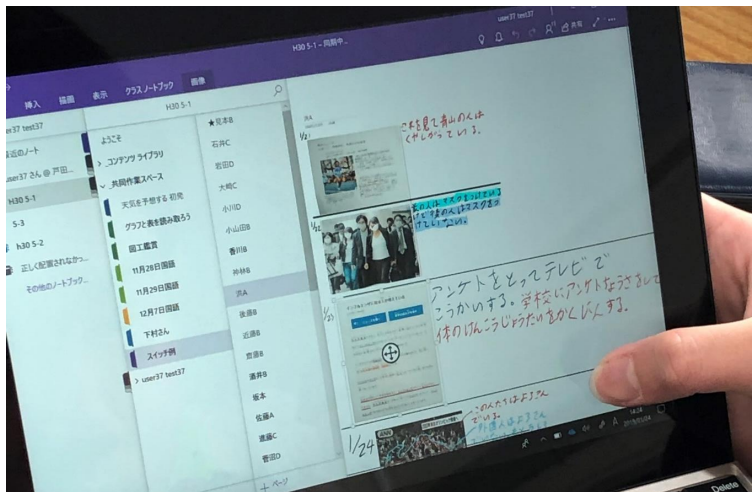


Left side: Microsoft Teams interface showing the '未来の学年団' (Future Yearbook) channel. The 'ファイル' (Files) tab is active, displaying a list of documents related to the yearbook.

Right side: Microsoft Word interface showing the '学年通信 特別版.docx' document. The document content is displayed, including a table of contents and a list of documents.

部科	内容
国語 A	国語 A 先生
国語 B [1]	国語 B 先生
国語 B [2]	国語 B 先生
国語 C	国語 C 先生
国語 D	国語 D 先生
国語 E	国語 E 先生
国語 F	国語 F 先生
国語 G	国語 G 先生
国語 H	国語 H 先生
国語 I	国語 I 先生
国語 J	国語 J 先生

授業での協働学習



教育には Windows と Office を選ぶべき理由

GIGA スクール構想の今だからこそ、知っておきたい！

教育には Windows と Office を選ぶべき理由

～ Windows は「遅い」「重い」「管理が大変」なのは過去の話～



Windows の誤解 ① “起動が遅い!?”



授業中、説明している間にスタンバイ状態になって、再起動にまた時間がかかってしまう……

真実

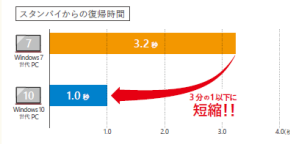
先生の話を聞いている間にスタンバイ状態になっても、
1秒で再開できます！



Windows 10 の真実

先生は「授業で説明している間に」、生徒は「集中して先生の話を聞いている間に」、PC がスリープしてしまうことはよくありますが、即復帰できる PC であれば、**授業の進行を妨げずに PC を使った授業に戻れます。**

Windows 10 は電源 OFF からの起動だけでなく、スタンバイ状態からの復帰も高速化。**わずか 1 秒**で復帰します。^{※1}
授業中も、集中して先生の話を聞く時間と、PC を使って課題に取り組む時間を効率良く切り替えて学べます。



※1: マイクロソフト調べ

Office 365 にしかできない！ Society 5.0 時代の ICT 教育 授業活用編

ICT 教育では、子どもたちが社会に出たときに役立つスキルを身に付けさせたい



社会人の多くが使っている Office と Windows のスキルを学びたい！

日本はもちろん、グローバルでも求められるスキルを学校で学べます！



生徒が社会人になったら、また 1 から Office や Windows を覚えなさいといけな……



社会に出て必要になるのは「やっぱり Office」

Word、Excel、PowerPoint などの Office アプリケーションは、世界のビジネスシーンで当然のように求められるスキルの 1 つとなっています。米国の調査では、「ビジネスや社会で求められるスキル」として第 3 位に「Microsoft Office」、第 11 位に「Microsoft PowerPoint」、第 13 位に「Microsoft Word」が挙げられています。^{※1}
授業で PC やタブレットを扱うことで、生徒の ICT スキルは確実に向上します。ただし、そのスキルを将来に活かすためには、より「社会で実践的に使えるもの」を身に付けることが重要です。教育現場における Office 365 の活用は文系・理系、めざす業種・職種といった違いを超えた「**みんなの将来に役立つ ICT スキル**」を養う機会となります。
このような背景からも、在学中に Office 365 の操作をマスターしておくことは、進学や就職にも有利と言えるでしょう。



※1: IDC Study Skills Whitepaper, 2013 より

Windows の誤解と真実

誤解

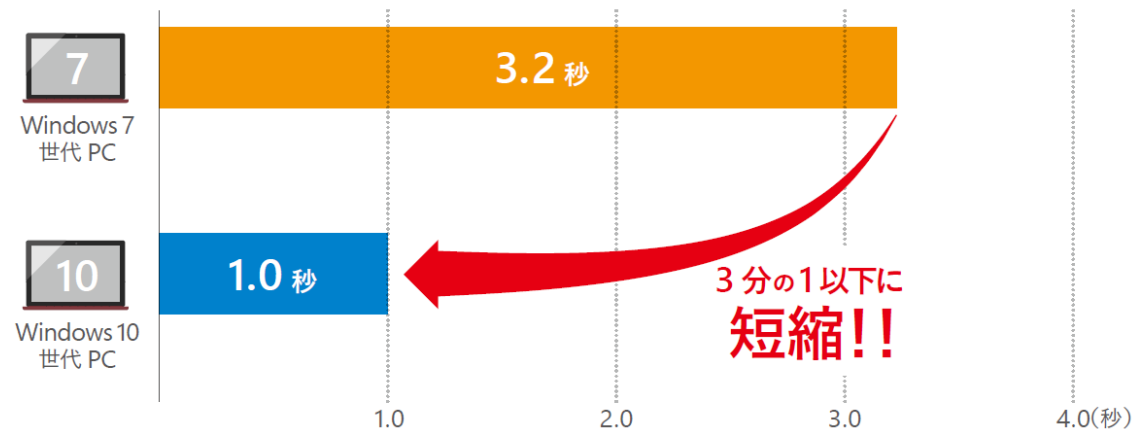
Windows はスリープからの起動が遅く、PCを再起動させるのに時間がかかる？

真実

Windows 10 は電源 OFF からの高速起動だけでなく、スリープ状態からも
わずか1秒で高速復帰できます。

PCを使う時間と、先生の話聞く時間を
効率的に切り替えることができます。

スタンバイからの復帰時間



Windows の誤解と真実

誤解

Windows は急に更新が始まってしまうし、更新に時間がかかる？

真実

Windows 10 では PC を使用する時間帯を設定しておく、その間は更新が自動で始まることはありませんので、**更新するタイミングをコントロール**できます。

さらに、更新プログラムを改善し、**ファイルサイズを最大 50% まで縮小**、更新にかかる時間を大幅に短縮しています。

また、Intune を使えば、**スリープ状態からの更新も可能**になるので、**夜間に充電保管庫内で端末を自動アップデート**させることが可能になります。

Office 365 ～Society 5.0 時代の ICT 教育～

子どもたちが社会に出たときに役立つスキルを、ICT 教育を通して身に付けさせたい

他社サービスの場合

仕事で使われているのは Office や Windows なので、生徒が社会人になったらまた1から覚える必要があります。

Office 365 の場合

Office 365 は、日本ではもちろんグローバルでも求められてるICTスキルです。

米国の調査では、「ビジネスや社会で求められるスキル」として

第 3 位に「Microsoft Office」、第 11 位に「Microsoft PowerPoint」、
第 13 位に「Microsoft Word」が挙げられています。

在学中に Office 365 をマスターしておくことは「社会で実践的に使えるもの」を身に付けることになりますので、進学や就職にも有利だと言えます。

Office 365 ～Society 5.0 時代の ICT 教育～

欧米だけではなく、中国との交流や留学時でも問題なく使いたい

他社サービスの場合

中国で利用規制されているため、留学や遠隔交流の際には別サービスの購入が必要になります。

Office 365 の場合

国際的に活躍する「グローバル人材」の育成が大きなテーマになっているなか、インターネットを通じた国際交流を行う機会も増えてきました。

Office 365 は **240 を越える国と地域で正式に利用が可能**なので、欧米をはじめ、中国やシンガポール、タイなどアジア主要国との遠隔授業やファイル共有、短期留学の際も、追加コストや手間なく海外交流が行えます。

Office 365 ～Society 5.0 時代の ICT 教育～

ふりがなや縦書きなど、日本の教育現場特有の機能は必須

他社サービスの場合

横書きしかできないし、ふりがなも振れないので、
国語の授業や低学年向けの教材作成ができません。

Office 365 の場合

Word や PowerPoint をはじめとした Office アプリでは、**縦書きやふりがな入力が可能**ですので、
日本の教育現場に特化した教材づくりを行うことができます。

また、Windows 10 には日本の ICT 教育現場に最適なフォントである「**UD デジタル教科書体**」も標準
搭載されています。**学習指導要領に準拠**し、書き方の方向や点・ハライの形状を保ちながらも、
太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障がい）に配慮したデザインの
フォントです。

縦書きやふりがな入力が可能です。

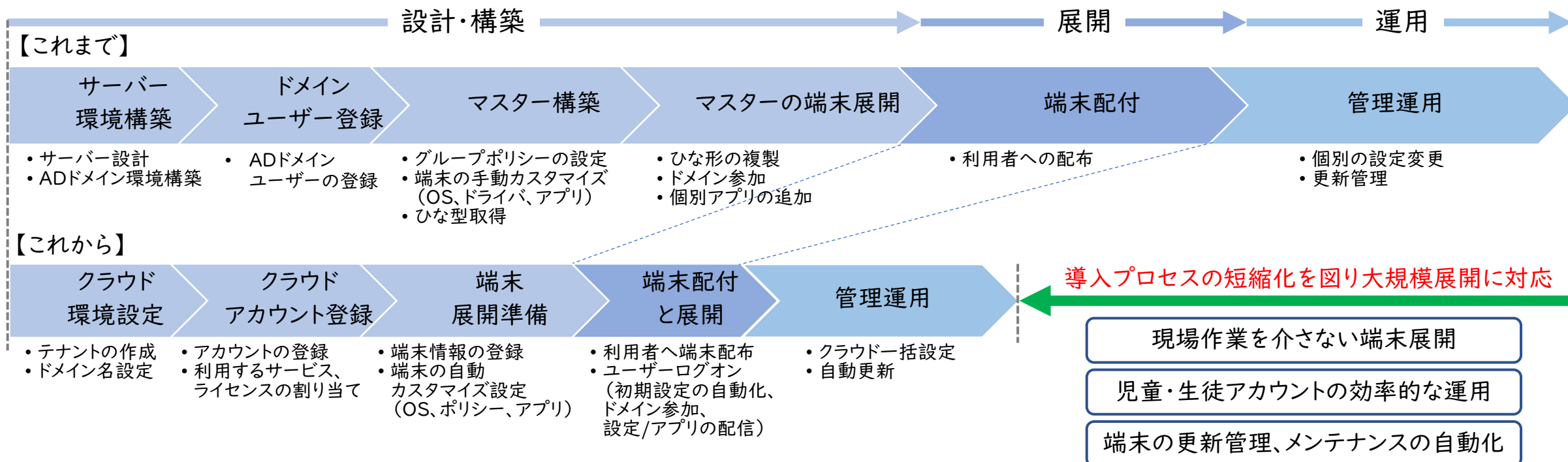
③ MDMによる大規模な端末展開とアカウント管理手法の提供

求められる要件・考慮すべき事項

- 導入の工数を減らし、校内LAN工事を削減したい
- 1人1台の端末整備の機器設置・その後の運用管理
- 今後、クラウドによる一人1アカウントの運用が必要
- 誰一人取り残すことのない個別最適化された学びの実現
一人一人の学習記録ビッグデータの収集・分析へ

マイクロソフトの解決策

- 設置費用を大幅に削減する新しい管理手法
IntuneとAAD による Modern Desktop Deployment
- 900万台・900万人の端末展開、アカウント管理対応手法
クラウドのメリット“迅速な基盤構築”を発揮
 - MDM(Intune)活用の展開・管理で、コストの削減と納品・メンテナンスのスケジュールを短縮



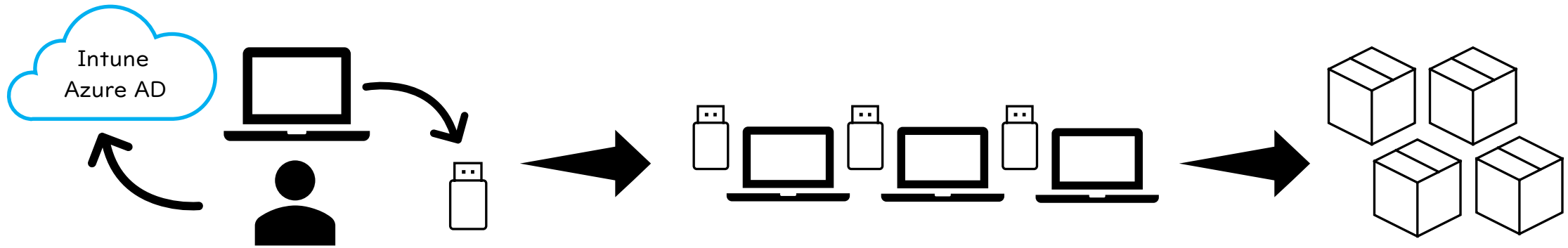


③ MDMによる大規模な端末展開とアカウント管理手法の提供

- ①最小限の設定パッケージを作成
- ②ユーザー登録

- ③初回起動時にUSBを接続し
初期設定を自動実行

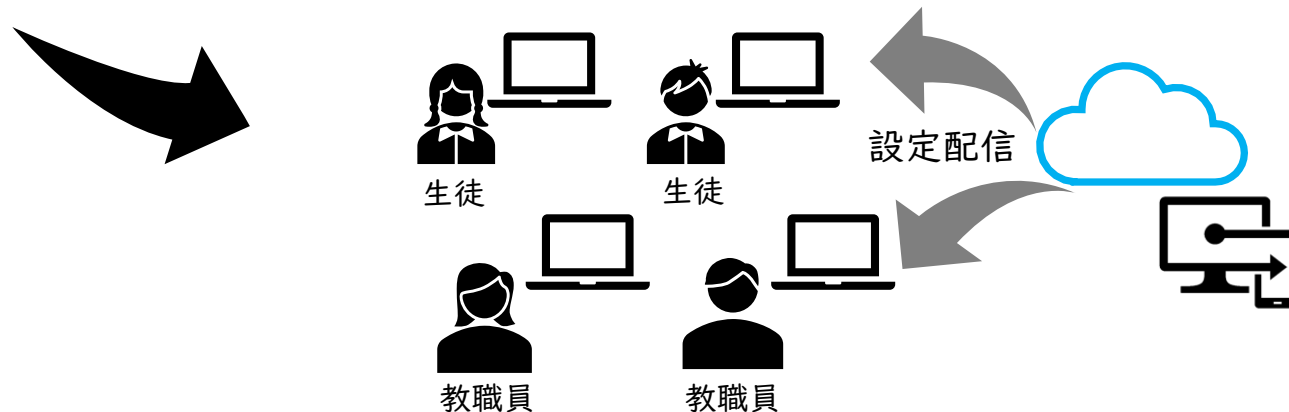
- ④学校へ配付



管理者の作業

学校での作業

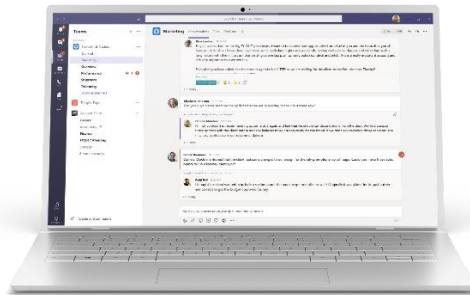
- ⑤ネットワークに接続して起動
- ⑥ユーザー毎に設定が配信され利用開始



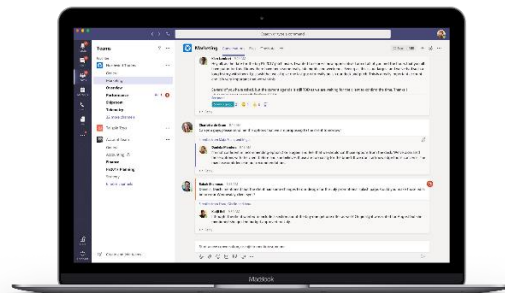
働き方でも学び方でも必要になる今後の考え方 デバイスを問わず一貫したエクスペリエンスでつながりを維持

Office365 / Azure Active Directory

デスクトップ

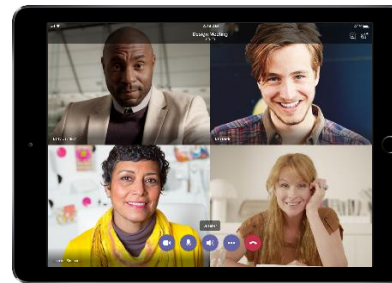


 Windows 7 以上

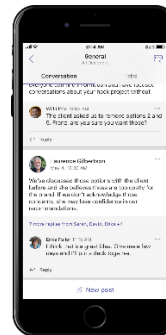


 OS X 10.10 以上

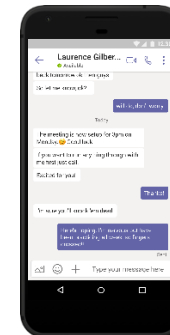
モバイル



iPad

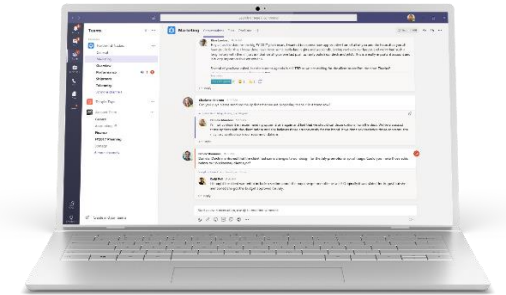


iPhone



Android

Web



 Microsoft Edge

 Google Chrome

Intune for Education

GIGAスクール端末設定ガイドブック



マイクロソフト GIGA スクールパッケージ

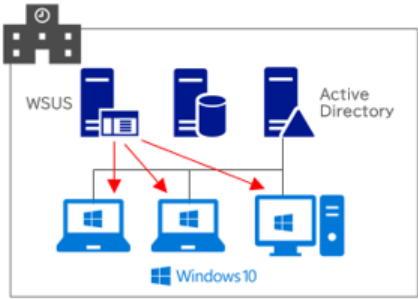
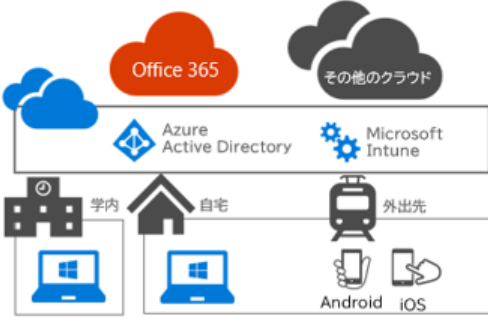
Windows 10 のモダンディプロイメントと運用手法
基礎編

第1.1版
2020年2月

日本マイクロソフト株式会社
パブリックセクター事業本部
文教営業統括本部

7 Windows 10 の展開方法の決め手は運用

Windows 10 の導入・展開を行うことは、**継続的に進化し続けるITインフラ環境（WaaS モデル）**へ移行することを意味します。またGIGAスクール構想では、1人1台端末の配布以外にもクラウドサービス利用についても述べられています。教員端末は Windows を利用しているケースは多いですが、児童・学生が自宅で利用する学習端末は Windows 以外のものになる可能性もあります。したがってGIGAスクール構想に対応するインフラは**マルチデバイス利用を前提**とし、学内のみならず自宅や外出先からも安全に様々なサービスを利用できる環境を用意する必要があります。

	従来型のインフラ	GIGAスクール対応インフラ
お客様の環境	学内イントラネット環境 	クラウド環境 
認証・管理基盤	Active Directory	Azure Active Directory Microsoft Intune
展開方法	Windows 10 ADK and MDT (Microsoft Deployment Toolkit)	Provisioning Package Microsoft Intune
OSアップデート制御	Windows Server Update Services (WSUS)	Windows Update for Business

※7: BYOD(Bring Your Own Device): 教師や生徒が個人保有する端末
※8: CYOD(Chose Your Own Device): 学校や教育委員会が先生や生徒が業務や授業でしようしてもよい端末を何種類か選定し、それぞれ使いたい機種をえらんで利用すること。

構築・運用・管理の
関しては
Technicalトレーニング編で
詳しく行います。



④ 学びと働き方を同時改革する教員研修の無償提供

求められる要件・考慮すべき事項

- GIGA予算に組み込まれない研修費用：自治体負担
各教科等ごとに、ICT を効果的に活用した学習活動
教員の働き方改革
- 日常的にICTを活用する体制をつくる
→ 来るべきBYOD時代に向けた親御さんの納得
のためには日常的な活用、有効性の証明が最重要

マイクロソフトの解決策

- 2つのプログラムを無償でご提供
- 都道府県・政令市 教育センター向け研修プログラム
 - オンライン研修コースにGIGA向け研修メニュー化
- 運用管理者と現場の教員向けに、Teams を中心とした、授業での活用や
日常の運用に必要な研修を提供します

**現場の教員向け** 

■ Teams の授業での活用

■ Teams による協働学習

■ Forms による小テスト・課題

■ Windows/Office 活用

**運用管理者向け** 

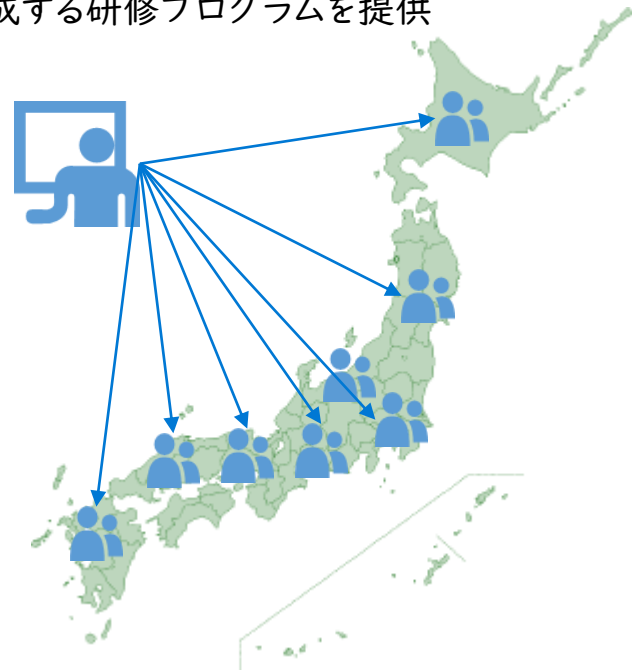
■ Office 365 の運用

■ Office 365 アカウント作成

■ ライセンス割り当て

■ Teams チーム作成

都道府県において市町村の研修トレーナーを
育成する研修プログラムを提供



オンライン研修コースに「GIGA向け研修メニュー」新設

① 現時点では、選択した言語で利用できる Microsoft 教師センターのコンテンツは限定されています。 [ここから英語のコンテンツにアクセスできます。](#)

ようこそ

トレーニングとリソースを確認および参照して、あなたのような教師向けに作成された個人用ハブでバッジや証明書を取得できます。



コースの参照

教室で Microsoft のテクノロジーを効果的かつ魅力的に使用する方法を学習する一方で、Professional Development Hours (PDH) を獲得できます。

[コースを参照>](#)



ラーニングパスの参照

ラーニングパスは、特定のトピックをより深く学習できる一連のコースで、スキルの開発に重点的に取り組んだり、Microsoft 製品について習得したりできます。

[ラーニングパスを参照>](#)



リソースと授業計画の参照

アイデア、教室で使う教材、すぐに使用できる授業計画を探して、学生が将来に備えたスキルを開発するのを支援できます。

[リソースを参照>](#)



成果の表示

自分のプロフィールで獲得したバッジとポイントを表示します。トレーニングの証明書を共有して、他の人に学習内容を実証することもできます。

[プロフィールを表示>](#)

<https://www.education.microsoft.com/ja-jp>

⑤ 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に対応可能なクラウド環境

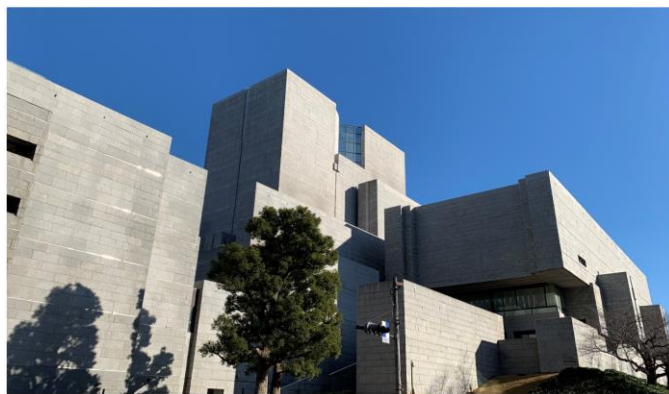
求められる要件・考慮すべき事項

- 個人情報規定(ISO27018, ISO27701 など)の認証
- 情報資産の管理に日本の法律が適用されること
- 係争時における管轄裁判所が日本国内になること
- クラウドサービスが安全に運用されているかの確認
- 職員室は Office 継続→万全のセキュリティー対策

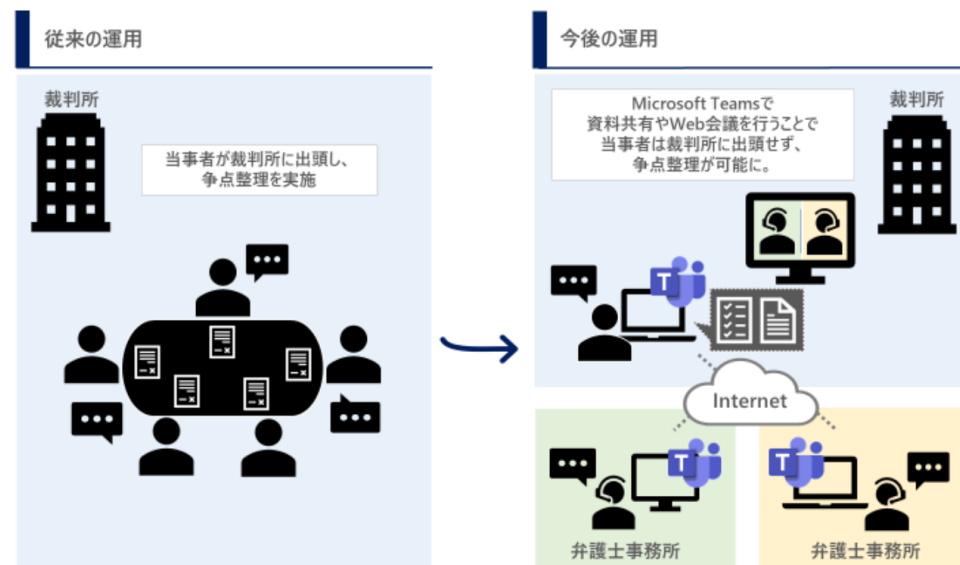
マイクロソフトの解決策

- マイクロソフトのクラウドサービスは、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に対応可能なクラウドサービスです。
- 職員室は国内ほぼ Windows です。セキュリティー・既存設備連携を考慮すれば OSは1つに統一

【事例】最高裁判所の民事訴訟手続きの IT 化において、Microsoft Teams を採用（2020年1月9日 | Japan News Center）
～ 時間と場所にとらわれないコラボレーションにより、裁判の迅速化と負担軽減を実現 ～



- 最高裁判所 が推進する、民事訴訟手続きの IT 化において、「Office 365」におけるコラボレーションツール「Microsoft Teams」が採用されました
- 2020 年 2 月から 9 か所、2020 年 5 月頃から 5 か所の裁判所で取り扱われる民事訴訟事件の争点整理注から Teams が活用されることとなります。民事訴訟事件の争点整理において、Teams が活用されるのは世界初です。



⑤ クラウドサービスを選定するにあたっての注意点

1. クラウドサービスを選定するにあたって「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」

マイクロソフトのクラウドサービス

1.1. 守秘義務、目的外利用及び第三者への提供の禁止

個人情報を取り扱うクラウドサービスを利用する場合には、クラウドサービスにおける**個人情報の規定 (ISO27018, ISO27701 など)**などの認証を取得しているサービスが望ましい。

ISO27018, ISO27701 などの
個人情報の規定に関する認証取得

参照:クラウドサービスにおける個人情報の取り扱い(改訂個人情報法との関連)

利用契約の準拠法は日本、管轄裁判所は東京地方裁判所
円建てでの決済が可能

1.2. 準拠する法令、情報セキュリティポリシー等の確認

自らの情報資産の管理に**日本の法律が適用**されること、係争時における**管轄裁判所が日本国内**になることを留意する必要がある※。

※ ドル建てで決済する場合には外国通貨利用なのでその時点で明示されなくても当該通貨の発行国の法が適用されますので注意してください。
マイクロソフトクラウドは、円建てでのお支払いが可能です。

1.3 監査

クラウドサービスが安全に運用されているかの確認するには、**日本のクラウド情報セキュリティ監査 (CSゴールドマーク)**で認定を受けているクラウドサービスを選定するで、クラウド利用者による直接監査を行う必要がなく**CSゴールドマーク**を導入時や年次の**利用者自身の監査結果として利用することができる**。

CSゴールドマークを取得

Microsoft 365 Education と
Windows 10 で実現

2. クラウドサービス利用時におけるセキュリティー対策

最新のセキュリティモデル(ゼロトラスト)を採用することで、クラウドを安全に利用することが可能です。

校務に携わる者のセキュリティには標的型攻撃の対策が施されていることが望ましい。

Azure AD x Intune x Windows
でゼロトラストベースの環境実現

「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」ハンドブック



「教育情報セキュリティポリシーに関する ガイドライン (令和元年 12 月版)」 ハンドブック

第 1.2 版

日本マイクロソフト株式会社
パブリックセクター事業本部
文教営業本部

平成 29 年度版ガイドライン

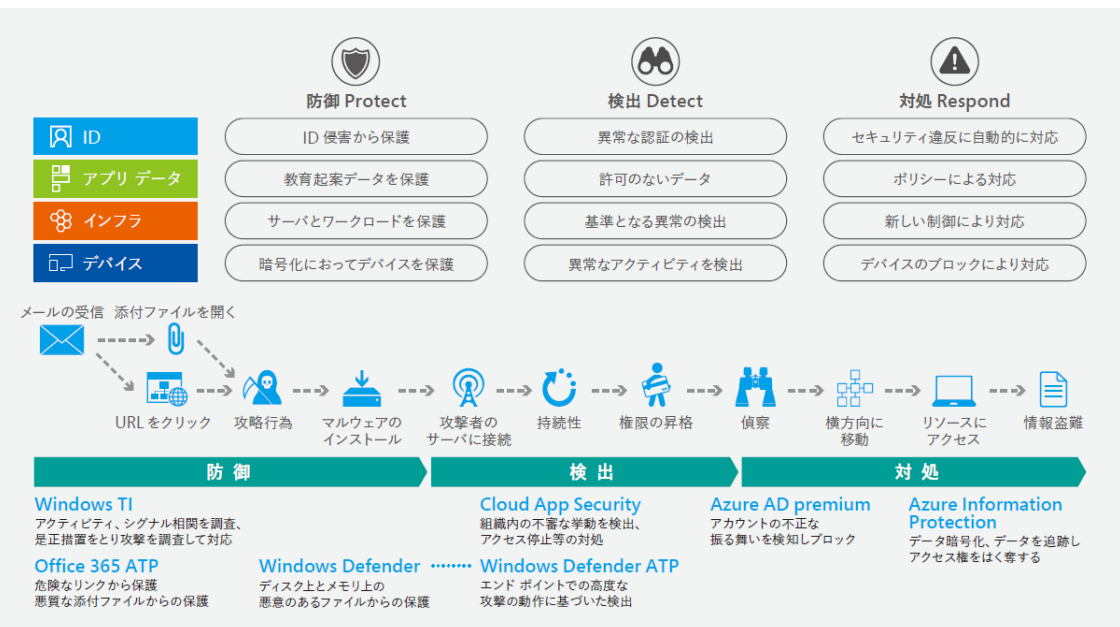
オンプレミス環境による構築を想定した内容であり、クラウド利用を前提とした記載がなく、教育現場におけるクラウドサービス利用に関する方向性が不明確であった。

クラウドサービス利用時の、クラウドサービス提供事業者における情報の取り扱い方法が必ずしも明確でない。
(同意のない目的外利用、第三者提供が行われていないかなど)

令和元年 12 月版ガイドライン

「政府情報システムにおけるクラウドサービス利用に係る基本方針」(2018 年 6 月 7 日 各府省情報化統一責任者 (CIO) 連絡会議決定) の内容を参考に、**教育現場におけるクラウドサービス利用に関する考え方を追記。**

クラウドサービス提供事業者が**留意すべきプライバシーに関する事項**を追加。



Microsoft Secure の範囲

セキュリティ対策					EMS	365	OS	サービス / その他
運用管理								
セキュリティ対策								
ネットワーク境界	サーバー	認証基盤	PC / モバイル	データ				
サーバーの安全公開 ファイアウォール FW/ルータの安全な構成 負荷分散	マルウェアメール対策 スパムメール対策 標的型メール対策 メール暗号化	認証と識別 なりすまし対策 ルールの徹底 ユーザー ID の統合 多要素認証 認証基盤要案化 管理特権保護	マルウェア対策 安全な Web 閲覧 多要素認証 不正通信禁止					
検知分析	侵入検知 / 防止 標的型攻撃検知	認証基盤監視	標的型攻撃検知					
被害軽減	電子文書管理 ドキュメント暗号化 アクセス制御 完全性検査ツール 出口対策	ネットワーク分離 ネットワーク検疫	侵入拡大防止 脆弱性緩和 不正アプリ起動防止 危険な行為の警告 端末ロールバック 盗難紛失対策 安全な構成 リモートワイプ シンククライアント	ファイル暗号化				
事後対応				ファイル追跡				
					運用管理			
					管理権限のコントロール			
					バックアップ			
					パッチ管理			
					ライセンス管理			
					資産管理			
					構成管理			
					ソフトウェアの最新化			
					トラブルシューティング			
					ソフトウェア利用状況の把握			
					展開イメージの標準化			
					ログ管理			
					稼働監視			
					システム健康診断			
					無線機器のコントロール			

マイクロソフトが提唱する“GIGAスクールパッケージ”

”GIGAスクールパッケージ”

文部科学省が掲げるGIGAスクール構想に対応するため、
マイクロソフトが提供する教育ソリューション

①

GIGAスクール対応PC

②

GIGAスクール構想に対応した
教育プラットフォーム

③

MDMによる大規模な端末展開と
アカウント管理手法の提供

④

学びと働き方を同時改革する
教員研修の無償提供

⑤

「教育情報セキュリティポリシーに関する
ガイドライン」に対応可能なクラウド環境

学校基準

・先生方が使い慣れたWindows

現場の移行不安をなくし、すぐに活用

社会人基準

・子供たちの将来のためにOffice365

社会・企業で使われているスキル

安全基準

・情報は あくまで教育委員会のもの

Azureはクラウドの「貸金庫」

① 「教育トランスフォーメーション」ハンドブック

<http://aka.ms/etfjapan>



② Windows 10 のモダンディプロイメントと運用手法 基礎編

<https://aka.ms/gigadeploy>



③ 教育には Windows と Office を選ぶべき理由

<https://aka.ms/bestedu>



④ 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」ハンドブック

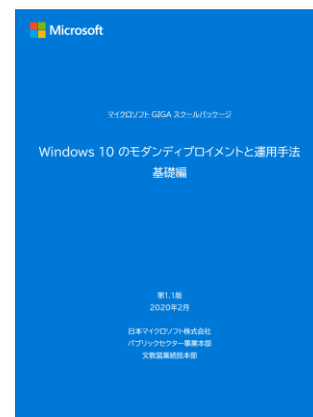
<https://aka.ms/securitycloud>



①



②



③



④



Microsoft 365 Education ライセンス契約について

Office 2019 と Office 365 ProPlus の違い
GIGAスクール対応 ライセンス提案
Microsoft 365 Education AIとは



GIGAスクール構想対応
Microsoft GIGAスクールパッケージ

日本マイクロソフト

A composite image showing two students in a classroom. In the upper part, a female student with long dark hair is looking through a white and blue microscope. In the lower part, a male student is using a stylus on a tablet computer that displays a website with the text 'These Low-Dropping You Feel Incredibly...'.

GIGA スクールパッケージ (1人1台端末整備包括内容)

端末

GIGAスクール対応PCとして、**8メーカー17機種**のWindows端末

- ・ 学習者用コンピュータ標準仕様書に完全準拠
- ・ プリンターなどの周辺機器への接続
- ・ 主要なプログラミング教材に対応（デスクトップ版可）

OS

Windows 10 Pro Education を提供

- ・ 企業レベルのウイルス対策、ゼロデイ攻撃対策 : Windows Defender
- ・ モバイルアプリケーション管理

学習者用基本ツール

世界中の教育現場・企業で、活用されている **Office 365**を提供

- ・ 使い慣れたOffice 365 のオンライン版とデスクトップアプリ、両方使用可能
- ・ 協働学習・個別学習・遠隔授業に役立つクラウドサービス
- ・ 授業プリントなど、既存の資産をそのまま活用
- ・ 縦書き・教科書フォントに対応

端末管理ツール

教育利用に対応した端末管理ツール **Intune for Education**

- ・ クラウド型端末管理 (Windows, iOS, Mac OS, Android対応)
- ・ Windows Updateの管理・制御
- ・ アプリの管理・制御

「GIGAスクール教育プラットフォーム」 新オファー アップデート

2020年3月



Microsoft 365 Education GIGA Promo

Microsoft 365 Education GIGA Promo

Microsoft 365 Education の新プラン:GIGA スクール構想のための特別な端末管理ツールライセンス

Microsoft 365 Education GIGA Promo

Intune for Education

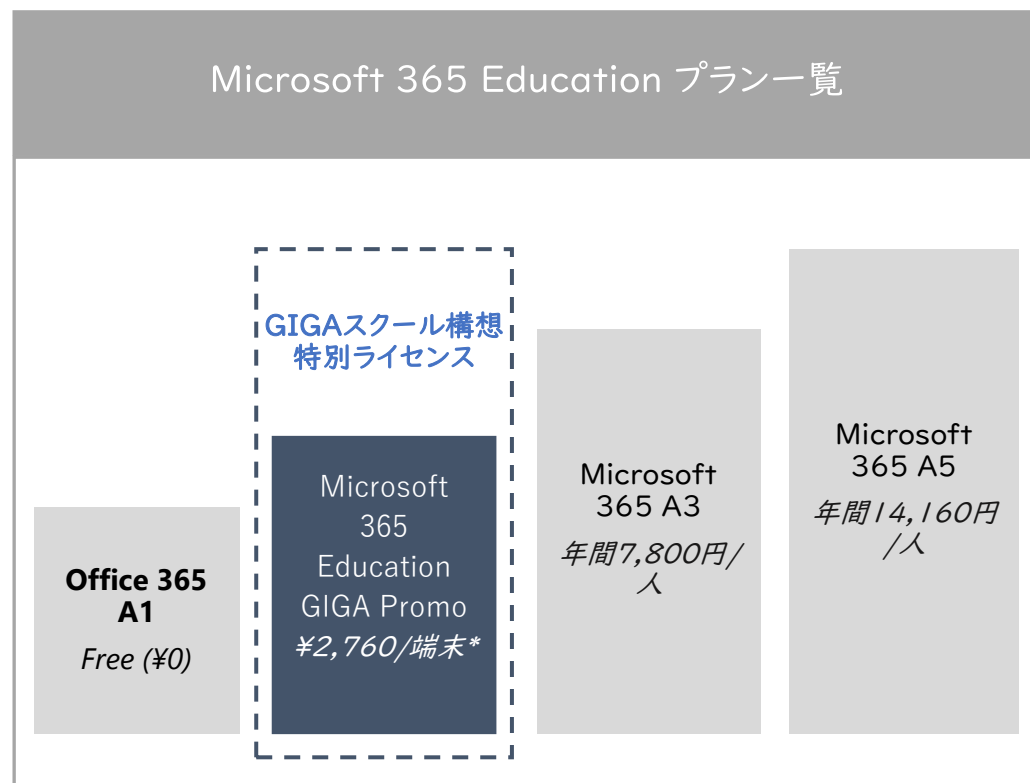
Office 365 Professional Plus

Windows 10 upgrade

ライセンス概要

詳細	• 2,760円/端末 買い切り • 端末に紐づいたライセンス (該当端末が使えるかぎり、最長6年間 利用可能) • Student Use Benefit 対象外 • 共有端末での利用
ライセンスプログラム	• CSP
対象顧客	• GIGAスクール構想の予算で端末を購入する日本の教育機関

Microsoft 365 Education プラン一覧と GIGA Promo



*端末に紐づいたライセンス (該当端末が使えるかぎり、最長6年間 利用可能)

Microsoft 365 Education GIGA Promo	Microsoft 365 A3	Microsoft 365 A5
GIGAスクール構想に対応するために特別に作られた新しいライセンス	中～大規模の教育機関向け 包括ライセンス	最上位のセキュリティ機能がついた中～大規模の教育機関向け 包括ライセンス
端末に紐づいたライセンス (該当端末が使えるかぎり、最長6年間 利用可能)	ユーザーに紐づいた年間サブスクリプション; Student use benefit 対応	ユーザーに紐づいた年間サブスクリプション; Student use benefit 対応
クラウドベースのソリューション	EES: ハイブリッド環境対応ソリューション CSP: (オンプレ対応不可)	EES: ハイブリッド環境対応ソリューション CSP: (オンプレ対応不可)
販売チャネル: CSP経由で GIGAスクール構想の予算で端末を購入する日本の教育機関のみ	販売チャネル: EES、CSP	販売チャネル: EES、CSP (2018.04**)

**Microsoft 365 A5 without PSTN Conferencing is available as of April 2018; Microsoft 365 A5, with PSTN Conferencing, will be available at a later date.

Microsoft 365 Education GIGA Promo の買い方

Microsoft 365 Education Japan Promo は、CSP経由の6年間有効の買い切り型端末ライセンスです。
日本市場のために作られた、GIGAスクール構想の対象教育機関にのみ提供されるライセンスです。

1

教育機関

1. Microsoft 365 Education GIGA Promo をリセラーに発注
2. 教育機関のドメインやメールアドレスなど、必要情報の提供

2

リセラー

1. Microsoft 365 Education GIGA Promo をディストリビューターに発注
 2. 教育機関のドメインやメールアドレスなど、必要情報の提供
- ダイレクトCSPリセラーは、直接Microsoftに発注可能; “ディストリビューター”を参照

3

ディストリビューター

- APIs もしくは Partner Center から Microsoftに発注
1. Microsoft 365 Education GIGA Promo の発注
 2. Office 365 AI 教職員ライセンス (¥0) を必要人数分追加
 3. Office 365 AI 学生ライセンス (¥0) を必要人数分追加

購入後のライセンス管理

- Intune for Education - 端末に紐づくライセンス;ユーザーへの割り当ては不要
- Office 365 AI - ユーザーに紐づくライセンス; Office 365 管理ポータルから Office 365 AI ライセンスを教職員または学生に割り当て必要

Office 365 AI ユーザーの追加/削除

発注数を上回るOffice 365 AIのライセンスが必要になった際には、Office 365 管理者ポータルから上限なしで追加することが可能です。

パートナー経由での発注は必要ありません。



© 2020 Microsoft Corporation. All rights reserved.

本資料は情報提供のみを目的としており、本資料に記載されている情報は、本資料作成時点でのマイクロソフトの見解を示したものです。状況等の変化により、内容は変更される場合があります。本資料に特別条件等が提示されている場合、かかる条件等は、貴社との有効な契約を通じて決定されます。それまでは、正式に確定するものではありません。従って、本資料の記載内容とは異なる場合があります。また、本資料に記載されている価格はいずれも、別段の表記がない限り、参考価格となります。貴社の最終的な購入価格は、貴社のリセラー様により決定されます。マイクロソフトは、本資料の情報に対して明示的、黙示的または法的な、いかなる保証も行いません。